

機械設備工事特記仕様書 - 1

【工事概要】
1 工事場所
2 建物概要
建物名 構造 階数 延床面積(m²) 消防法令別表第一耐震安全性の分類 備考

3 工事科目
印をついたものを適用し、各一式とする。
工事科目 建物名称 普通教室棟 渡り廊下棟

- 【特記事項】
1 一般事項
1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)令和7年版」(以下、「標準仕様書」という。)

表形式の特記事項。項目: 設備機材等, 機材の承諾, 機材の品質・性能説明, 現場代理人, 電気保安技術者, 工用電力・水その他, 官公署への手続き, 工用仮設物, 足場・作業構台, 監督職員事務所, 建設副産物の処理及び建設発生土の処理, 再生資源利用(促進)計画・実施書の提出, 1)「建設発生土処理計画書」及び「建設副産物等処理計画書」を監督職員に提出する, アスベストの処理等

表形式の特記事項。項目: 工事関係書類, 履行報告, 工事写真, 完成図書, 著作権等, 付属品及び予備品, 耐震施工, 一般用弁, フレキシブルジョイント, 鋼管用伸縮管継手, 溶接接合, 地中埋設標及び埋設表示用テープ, 防食処理, 保温, 塗装(露出施工部), 吹出口及び吸込口ボックス, 圧入製ダクトの板厚, ボックス, 容量等の表示, 誘導電動機, 開放形膨張タンク等, 電線及び電線管

表形式の特記事項。項目: はつり及び穴開け, インサート及びアンカー, 防煙ダンパー及び防火防煙ダンパー, 消音内貼, ドレン抜き, 取付枠, 機器の基礎, 防火区画, 揭示板, 天井上区分, 給油設備, 建物導入部配管, 鋼材, 制御及び操作盤, 主要熱源機器, 設計時の温湿度条件, 長方形ダクトの工法, ダクトの分岐方法, 配管材料(図面特記部分は除く), 空調排水管, 蒸気配管, 補給水管, 膨張管, エア抜管, 加湿給水管, 冷媒管, 温度計, 定風量ユニット, 変風量ユニット, カセット形ファンコイルユニット, ポイラー燃焼制御方式, 遠心・スクリーユ冷凍機, 冷媒管接続方法, 高温再生器の構造, コージェネレーション装置, 集管理中リモコン

機械設備工事特記仕様書 - 2

空	銅板製煙道 (ボイラー)	厚さ	3.2mm	4.5mm
		ばい煙濃度計の取付座 伸縮継手	ばいじん量測定口 掃除口	
調	ばい煙濃度計 (ボイラー)	送風機付き	送風機なし	
		(電源は熱源機器付属制御盤より取出し、配管配線共本工事に含む)		
和	瞬間流量計	固定形	個	
		着脱可能形	(測定用タッピング)	個 本体 個
設	保温 (図面特記部分は除く) (施工箇所はA-13に示す)	1) 冷媒管の保温外装は下記による。(施工箇所はA-13に示す)		
		・屋内 隠れ部	不要	必要
備		露出部	保温化粧ケース(塩化ビニル樹脂製)	ビニル化粧テープ巻き
		・屋外	ステンレス鋼板 保温化粧ケース(樹脂製)	アルミ合金製 ステンレス鋼板製(つや消し) 溶融亜鉛めっき鋼板製)
換	ダクトの工法	アングルフランジ工法 コーナーボルト工法(共板フランジ工法 スライドオンフランジ工法) スパイラルダクト アルミフレキシブルダクト		
		ダクトの分岐方法	給気ダクト 割込み方式	直付け方式
気	厨房排気ダクトの板厚	排気ダクト	割込み方式	直付け方式
		厨房排気ダクトは亜鉛鉄板製とし、板厚は下記による。		
設	排気フード	1) 排気フードの補強・支持金物・接合剤等は、亜鉛鉄板製ダクトの当該事項によるものとし、材質は下記による。 ステンレス鋼板(補強共)		
		2) 排気フード廻りに取付ける幕板は、上記フードと同材質とする。 本工事 別途工事		
備	保 温	浴室・厨房(多湿箇所)の外気取入ダクトの保温	不要	必要
		外気取入ダクトの保温(空調を行っている室について)	不要	必要
排	排煙対象部分	廊下	事務室	図示
		ダクトの種類	廊下1ダクト	高圧2ダクト
煙	ダクトの工法	アングルフランジ工法		
		ダクトの材料	亜鉛鉄板製	鋼板製(1.5mm以上)
設	排煙口	1) 形状	スリットフェース形	パネル形
		2) 排煙口の開放	手動	(機械式 電気式)
備	保温	3) 復帰装置	手元復帰式(手動式)	電気式
		4) ダンパー本体及び操作箱との廻り配線は本工事とし、それ以降の制御配管配線は別途工事とする。		
自	設	床下及び暗渠内の保温	不要	必要(図示)
		図面による。		
衛	便器用節水装置	電気供給方式	AC電源	乾電池
		自動水栓	電気供給方式	AC電源
生	器	手動スイッチ	無し	有り
		大器用洗浄弁	操作方式	手動式
具	水石けん入れ	手洗器一体型	手洗器分離型	
		車椅子使用者用器具	1) 大器用洗浄弁	センサー式
設	給水方式	安水槽方式	高置タンク方式	水道直結増圧方式(水道用直結加圧ポンプユニット)
		ポンプ直送方式(小型給水ポンプユニット)		
水	配管材料 (図面特記部分は除く) (施工箇所はA-24に示す)	屋外配管[露出]	一般配管用ステンレス鋼管(SUS304)	(呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合)
		水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP)(20A)	ポリエチレン粉体ライニング鋼管(SGP-PA、SGP-FPA)	硬質塩化ビニルライニング鋼管(SGP-VA、SGP-FVA)
設	地中配管[屋内]	一般配管用ステンレス鋼管(SUS316)	(呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合)	
		水道用ポリエチレン二層管(50A以下)(1種 2種)	(接合方法 メカニカル 電気融着)	
備	地中配管[屋外]	水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP)	ポリエチレン粉体ライニング鋼管(SGP-PD、SGP-FPD)	硬質塩化ビニルライニング鋼管(SGP-VD、SGP-FVD)
		一般配管用ステンレス鋼管(SUS316)	(呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合)	
緊	急遮断弁装置	必要	不要	
		駆動方式	電気式	機械式
量	水器	現地表示式(直読式)		
		遠隔表示式(パルス式)		

水	栓柱	合成樹脂製(70x70x1300H)		
		ステンレス製()	アルミニウム合金製()	不凍水栓柱()
給	管の埋設深さ	特記なき場合、水栓取付け高さは約600とする。		
		1) 一般敷地	300mm	
水	埋戻し及び盛土	2) 構内車両通路	600mm	
		3) 寒冷地では凍結深度以上とする。		
備	加入金・負担金	不要	必要(別途 本工事)	
		本管引込工事	本工事(舗装本復旧まで 舗装復旧まで)	別途工事
排	排水方式	汚水と雑排水 [屋内]	分流式 合流式	
		汚水・雑排水と雨水[屋外]	分流式 合流式	
水	放流式	ポンプアップ排水	有り(雑排水 汚水 雨水 浄化槽2次側)	無し
		雑排水	浄化槽	
設	配管材料 (図面特記部分は除く)	直放流下水管	浄化槽	別途樹・側溝
		雨水ポンプアップ排水	直放流下水管	雨水側溝 雨水樹
水	屋内汚水管	直放流下水管	雨水側溝	雨水樹
		硬質ポリ塩化ビニル管(VP)	リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP)	
備	通気管	排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管	硬質ポリ塩化ビニル管(VP)	リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP)
		硬質ポリ塩化ビニル管(VP)	リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP)	排水・通気用耐火二層管(VP)
消	火	地中配管[屋内]	硬質ポリ塩化ビニル管(VP)	リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管(RS-VU)
		地中配管[屋外]	硬質ポリ塩化ビニル管(VP-VU)	リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管(RS-VU)
設	保温	鋼管類のポンプアップ排水用の配管は、硬質塩化ビニルライニング鋼管(SGP-VA、SGP-FVA)(地中配管はSGP-VD、SGP-FVD)とし、継手はフランジ接合とする。		
		負担金	不要	必要(別途 本工事)
給	湯	本管接続工事	本工事(舗装本復旧まで 舗装復旧まで)	別途工事
		給湯方式	中央式	局部式
備	保温	配管材料	水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管(SGP-HVA)	一般配管用ステンレス鋼管
		鋼管(壁又は床埋設をする場合は、保温付被覆鋼管を使用してもよい。)	被覆鋼管	
消	火	消火設備の種類	屋内消火栓	スプリンクラー
		泡消火	不活性ガス消火()	
設	配管材料 (図面特記部分は除く)	屋内配管	配管用炭素鋼管(白)	圧力配管用炭素鋼管(白 Sch 40)
		地中配管[屋内][屋外]	一般配管用ステンレス鋼管	消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管(SGP-VS)
備	保温	消火用充水タンクの保温を	施工する(膨張タンクによる)	施工しない
		消火用呼水タンクの保温を	施工しない	施工する(膨張タンクによる)
ガ	スの種類	都市ガス	(発熱量 45,000kJ/Nm3)	
		液化石油ガス	(50kg 本立 20kg 本立)	
ス	配管材料 (図面特記部分は除く)	親メーター	貸与品	購入
		子メーター	貸与品	購入
設	地中配管の接合方法	計量方式(実測式)	バルス式)	
		屋内配管	配管用炭素鋼管(白)	
備	地中配管[屋内][屋外]	ポリエチレン被覆鋼管	ガス用ポリエチレン管	
		都市ガスの場合は、供給者仕様による。		
設	掘削工法	SGM工法	ネジ工法	PE管工法
		溶接工法		
掘	削工法	不要	必要(別途 本工事)	
		本管接続工事	本工事(舗装本復旧まで 舗装復旧まで)	別途工事
設	掘削工法	バーカッション式	ロータリー式	ダウンザホールハンマ式
		回転振動式		
設	掘削工法	深度()m		
		ケーシング材質	配管用炭素鋼管(黒)	配管用ステンレス鋼管
設	掘削工法	回転振動式	ロータリー式	ダウンザホールハンマ式
		ロータリーバーカッション式		
設	掘削工法	図面による。		

浄	化	形式	ユニット形	現場施工形
		処理方法	小規模合併処理(図面による)	合併処理(図面による)
医	療	図面による。		

そ	の	コア抜き (ダイドリ穴明け)	鉄筋探査機により探査し鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。
		校正記録	試験機器類の校正記録を提出する。
		交通誘導員	機器類搬入時、撤去材搬出時、外部掘削時に配置する。
		保安器材	カラーコーン、コーンウェイト、コーンバーにて囲いながら掘削する。
鉄	板	敷き	1,524x6,096x厚2.2mm

別表 1 付属品・予備品

工具箱(ドライバー、モンキーレンチ、組スプナー、ハンマー)	マンホールフック	パイプレンチ	ポンプブライヤー	ラバーカップ(大、小)
イーザーキャビネット	箱	キーボックス		
盤類予備品(ランプ及びヒューズの100%)				

試験・検査

水圧試験	排水滴水試験	排水通水試験	風量測定	吹出口温度測定
気密試験	点火試験	機器類動作試験		
騒音測定	振動測定	絶縁試験		
消防設備試験	水質検査	水槽水張り試験	アンカー引張試験(室内機、室外機)	